OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	東京山の手方言話者のスタイル切換え
Author(s)	西原, 菜奈子
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2004, 6, p. 23-41
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23244
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大社会言語学研究ノート』第6号（2004年3月）23-41

東京山の手方言話者のスタイル切換え

西原 菜奈子

1. 調査の概要

1.1. インフォーマント情報

〔表1〕

	年齢	職業	居住歴
SA	67	建設業	0-8：東京都渋谷区　8-9：群馬県前橋市（疎開）　9-12：神奈川県小田原市（疎開）　12-：東京都渋谷区
SC	69	元新聞社勤務	0-6：東京都大田区　6-11：神奈川県逗子市　11-28：神奈川県横浜市　28-48：東京都港区　48-：東京都大田区
YA	23	学生	0-：東京都渋谷区
YC	24	学生	0-3：東京都新宿区　3-7：シンガポール　7-19：東京都新宿区　19-20：アメリカ　20-：東京都新宿区
YF	29	学生	0-15：京都市左京区　15-23：東京都江戸川区　23-：大阪府池田市

1.2. 談話情報

〔表2〕

	話者	話者間の関係	収録時間	談話の展開
老－老	SA－SC	親しい同年代*1	40分	同程度の発話量
老－調	SA－YF	初対面	17分	YFが質問、SAが答える
若－若	YA－YC	親しい同年代*2	45分	同程度の発話量
若－調	YA－YF	初対面	50分	YFが質問、YAが答える

*1　絵描き仲間
*2　中学校の同級生

2. 結果および考察

2.1. 自称詞

2.1.1. 結果

〔表3〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ワタシ	-	1	-	-
ボク	4	10	3	17
オレ	-	-	42	-
ワタシタチ	-	2	-	-
ワレワレ	1	-	-	3
ボクラ	3	-	-	-
ウチラ	-	-	1	-

(1) SA は 1 人称単数を表わす形式として、両場面で主にボクを用いている。

(2) SA は《対調》でワタシを 1 例用いているが、これは談話開始直後に最初に現われた自称詞である。

〔1〕

→004SA:…(略)…でー んで、あのー{舌打ち}わ、私の あのー 事務所のー上に、(YF:はい) えー、すぐ上に、えー あのー デザイン事務所が (YF:ほー) 入っているんですよ。(YF:はいはい)

〔老ー調〕

(3) SA は 1 人称複数を表わす形式として、《対老》でワレワレ・ボクラを併用、《対調》でワタシタチを専用している。

(4) YA は単数を表す形式として、《対若》でボク・オレを併用、《対調》ではボクを専用している。

(5) YA は 1 人称複数を表す形式として、《対若》でウチラ、《対調》でワレワレを用いている。

2.1.2. 解釈

(a) (1) から、SA のボクはどちらの場面にも現れうることから、特にスタイル的な意味を付与されていないと考えられる。《対調》でボクの使用量が増えているのは、談話の展開が主として YF が 質問、SA が答える (SA 自身のことを話題にする) というものであったためではないか。

(b) (2) から、ワタシは発話の注意度 (「調査」場面への注意) が最も高かったために現れたものと考えられる。

(c) (3) から、SA は 1 人称複数を表わす形式では、《対老》でワレワレ・ボクラ、《対調》でワタシタチを用いてカテゴリカルな切り換えを行っていることがわかる。

(d) (4) から、YA のオレは改まった場面での使用に制約がかかることが予想される。対して、ボクにはそのような制約がかからない。

(e) YA のオレ・ボクの量的分布から考えると、原則として《対調》ではボク、《対若》ではオレを用いるものと考えられる。《対若》で用いられるボクには、デフォルトの形式を用いないことによって、何らかの表現効果 (以下の例では、「可愛さ」か？) が伴う。

〔2〕

375YA: だからー、(YC:はい) 何で 2 万 出さなきゃいけないの？

376YC: お餞別。

→377YA: 僕ねー いや だーら《だから》僕 こーゆーのはね 出す 人 選ぶのよ。 〔若ー若〕

〔3〕

506YC: …(略)…君みたいに 腹 でかくなんなくて 良かったよ。(YA:いやいやいやいや) 良かったー。

→507YA: いやいや 腹は でかくないからね？ 僕ぁ あんまね？…(略)… 〔若－若〕

(f) (5) から、YA は 1 人称複数を表す形式では《対若》でウチラ、《対調》でワレワレを用いて、カテゴリカルな切換えを行っていることがわかる。

(g) YA はウチラに対応する形式ウチも用いているが、この形式は 1 人称の意味を表さない。以下にウチラとウチの例を示す。

〔4〕 ウチラ

629YA: {笑い}あー そっかー。懐かしいな？ 中学の 頃も あったもんな？ 今 無いんだよな？

→ うちらの 母校な？ 〔若－若〕

〔5〕 ウチ

→413YA: いや ここの 管理者 うちの 先生に、ち じゃ ま 管理者じゃねーんだけどな？ まーな？ 責任者みたいな もんだからさ、こぼしたら お 俺 殺されるよ。{笑い} 〔若－若〕

なお、これらのウチはノ格でしか現れない。ウチラもノ格に制限される可能性がある。

2.2. 対称詞

2.2.1. 結果

〔表 4〕

	老 (SA)		若 (YA)	
	対老	対調	対若	対調
アナタ	1	-	-	-
オマエ*1	-	-	20	-
オタク*2	-	-	1	-
姓＋サン	-	-	-	4
名前＋サン	10	-	-	-
姓＋氏	1	-	-	-

*1 弱化したオアエ、複数を表すオマエラを含む。
*2 相手の家を指すものは除外した。

(1) SA は《対老》で主に名前＋サンを用い、《対調》では相手に言及する形式を用いていない。

(2) YA は《対若》ではオマエ・オタク、《対調》では名前＋サンを用いる。

(3) YA の《対若》で用いられるオマエには、間投詞的な用いられ方をするものが多く見られる (12 / 20 例)。以下の例を参照。姓＋サンがこのような現れ方をすることは無い。

〔6〕

414YC:ま 君は ここで 1 回 殺されてもいーかもねー。

→415YA:何でだよ。こんな お前 おとなしいのに お前。俺が お前 あれ なんか あったら みんな 泣くよ？ 〔若－若〕

2.2.2. 解釈

(a) SAが《対調》において相手に言及する形式を用いないのは、以下の2点の理由いずれかによるものと考えられる。

(a-1) 《対調》を改まった場面と位置付け、相手に言及する形式を用いないことによって改まりを示している。

(a-2) 《対調》の談話の展開は主としてYFが質問、SAが答える（SA自身のことを話題にする）というもので、SAは特に相手に言及することをしなかった。

(b) 姓＋氏は、《対老》で話題の変わり目に現われたものの、1例のみで特にスタイル的な意味を付与されているとはいい難い。

〔7〕

→185SA:あのーー 今の SC[SCの姓]ー氏 ゆった そのー う、その、赤羽の あの辺のね（SC:うん）話なんだけど、西ヶ浦もあれ あすこにつながってるでしょ？（SC:あーあーあー）あの辺、あれもなんか連兵所かなんか（SC:あーー あったん）あってね？（SC:そーねー）

〔老ー調〕

(c) (2)から、YAは対称詞をカテゴリカルに切換えていることがわかる。

(d) (3)の用法を除いても、YAの《対若》での対称詞の使用は（資料の量、発話量共に《対調》が多いにもかかわらず）《対調》に比べて多い。（《対若》8例、《対調》4例）ここから、YAは《対調》で相手に言及する形式をなるべく用いないことによって、改まりを示しているものと考えられる。

(e) 逆に、《対若》では(3)のような間投詞的用法にまで拡張することによって、聞き手との連帯感を強調しているように思われる。

2.3. 原因・理由

2.3.1. 結果

〔表5 接続助詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ノデ	2[*1]	3	-	47
カラ	14	8	47	27

*1 くだけた接続助詞（三尾1942）のモンデ（1例）を含む。

〔表6 接続詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ナノデ	-	-	-	4[*1]
デスカラ	-	-	-	1
ダカラ[*2]	10	3	30	44

*1 ナンデ（3例）を含む。
*2 ダー、ダーラ、ダカーを含む。

(1) SA は接続詞、接続助詞ともに切り換えがみられない。

(2) YA は接続助詞では、《対調》でノデが現れるのに対して、《対若》でノデが用いられることは無い。また《対調》ではカラよりもンデが多く用いられる。

(3) SA の《対調》において、カラ・ノデが丁寧形式と共起することはない。

(4) YA の《対調》ではカラの大多数 (20 / 27 例) が丁寧形式と共に現れるが、ノデの例は少数 (1 / 47 例) である。

(5) YA の接続詞は、両場面でダカラが主に用いられるが、《対調》ではこれに加えてナノデ・デスカラが用いられる。

2.3.2. 解釈

(a) (1) から、SA では原因・理由は切り換えの対象となっているとは言えない。ただし、《対老》で 1 例のみ現われたモンデは改まった場面では用いられない可能性がある。

(b) (2) (5) から、YA がノデを丁寧な形式として捉えていることがわかる。カラは、どちらの場面にも現れうることから、特にスタイル的な意味を付与されていないと考えられる。

(c) また (4) から、YA の体系内ではンデに対応するものが丁寧形式＋カラと捉えられていることが示唆される。接続詞において、ナンデとデスカラが同じ振る舞いを見せるが、これも同じ理由によるものであろう。

(d) (b) (c) の反例となるのは、「丁寧形式＋ノデ」と「φ＋カラ」であるが、これらの例を見てみると、下例のようにいずれも理由を表す (終助詞的な用法ではない)。つまり、典型的な原因・理由の意味で用いられるノデ・カラの間には、(c) の対応関係が成り立たないものと考えられる。

〔8〕 丁寧形式＋ノデ

026YA:きぼぁ《希望は》 輸送ですね。やっぱ 方向的には 一緒なんですけどー、

027YF:あっ そーなんですか。

028YA:え ただ 内勤ですけどね ダイヤ 組んだりとか、(YF:はーー) そーゆ 方向には なりますけどー、ま 最初のうち やっぱ 現場を 知れ って ゆーのは、至上命令で 来ますんでー、

029YF:ぜーいん じゃー う 動かす 練習は するんですか。

030YA:運転か 車掌かー、(YF:はーー) [ですよ]ね(後件)? …(略)… 〔若－調〕

〔9〕 φ＋カラ

176YA:うんー。で あとはー だって 自殺しよー ともったら こっからも できんですよ(後件)?

177YF:そーですよねー 飛び降りれば いーんです＊

178YA:ここ なんの あれも 無いからー{笑い} (YF:{笑い}) そー ぴょんて いけば 終わりなんですけどね?…(略)… 〔若－調〕

〔10〕 φ＋カラ

492YA:…(略)…その人はー、首なし、を 見た。(YF:うえーっ) でー 首なし死体を まー、も 慣れてるらしーんですよ。で まー どけときます っつてー その 電車がー そのまま もー

→ いちおー 使えないから 車両ーに 入るんですね(後件)? で 車両ん とこで 見たらー

→ もちろん 血を こー 洗う と、血い 付いてるから 洗っててー(後件)、下 覗いたら 首があった。…(略)… 〔若ー調〕

因みに、終助詞的な用法とは以下のようなものである。

〔11〕終助詞的な用法:カラ

165YF:うんー。だ《だから》 ここー 来て いーなー と思いましたよ。

→166YA:そっかー。ん あー。泊まってる やつとか いますからねー。(YF:んー) だ《だから》 別のー 橋口研 つの あるんですけどー、(YF:はい) そこ 今 学生 ひとりしか いなくてー、(YF:はい)ちょーど これの 半分ぐらい ひとりで 使ってるんですよ。(YF:はい) 泊まってま

→ すよ。(YF:{笑い}) 畳とか 持ち込んでますからねー。 〔若ー調〕

〔12〕終助詞的な用法:ノデ

046YA:システム で 横の つながりが あるもんだと 思ってくれれば その 単体として 動くんじゃなくてー、単体と 単体の つながりを 示してるものを システムって ゆーんですよー。(YF:ほー) てゆ[か] あんまりー 下手なこと ゆーと 出口先生《YAの指導教官》に 殺されるんですけどー、

047YF:{笑い}いや 出口先生には あのー、

→048YA:{笑い}そー、「違うっ」とか ゆって 殺されるんでー、(YF:{笑い}) あのーー、システムってー、 …(略)… 〔若ー調〕

(e) 接続助詞と接続詞の結果を比較すると、接続助詞の方がより切換えに関与していることがわかる。この傾向は、東京下町方言話者(松丸・辻 2002)にも見られる。

〔表7 用法による原因・理由接続助詞の分布(YA《対調》場面)〕

		理由○	理由×
ノデ	丁寧体	1	-
	普通体	35	11
カラ	丁寧体	11	9
	普通体	7	-

理由○:原因・理由を表す用法 理由×:原因・理由を表さない(終助詞的)用法

表7および用例〔11〕〔12〕からわかるように、ノデ・カラは終助詞的な用いられ方もする。つまり文末に近い位置に現れるのである。話者にとって文末部は(その他の部分に比べて)強く意識されると考えられるため、(終助詞的な)接続助詞の方が切換えの対象となりやすいと考えられる。

2.4. 逆接

2.4.1. 結果

〔表 8　接続助詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ケレドモ	1	-	-	-
ケド	20	11	46	96

〔表 9　接続詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
シカシ*1	-	-	1	-
デモ	3	4	28	17
ダケド	2	1	-	-
ケド	-	-	1	1

*1　以下のように、デモに置き換えられるものである。

〔13〕

→429YA: なんも 無いなー しかしな？ ここから 見える もんてな？ 一度で いーから これ マット 作ってほしーな？ パノラ む むー 懐かしいけど 今 懐かしいけど パノラマ カメラか なんかで 撮ってさ、ここは なに とか、

〔若－若〕

(1) SA は接続助詞では主にケドを、接続詞ではデモ・ダケドを用いている。

(2) YA は接続助詞ではケドのみを用いている。接続詞では主にデモを用い、その他の形式はあまり現れない。

2.4.2. 解釈

(a)　(1) (2) から、接続助詞・接続詞共に切換えの対象とはなっていないことがわかる。

(b) YA は、接続助詞の数が《対調》では《対若》の 2 倍近くになるが、逆接の意味を表さない用法で多く用いられているように見える。今後、精査が必要である (cf. 2.3. 原因・理由)。

2.5. 否定条件形

2.5.1. 結果

〔表 10*1〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ナキャ	-	-	2	9
ナイト	1	1	-	2
ネート	-	-	1	-

*1　「行かなきゃ（いけない）」のような当為表現の「なきゃ」にあたる形式を採用した。

(1) SAは、ナイトのみを用いている。
(2) YAは、《対若》でナキャ・ネート、《対調》でナキャ・ナイトを用いている。
(3) また、東京下町方言話者（松丸・辻2002）のSAにはナケリャという形式が現われたが、今回の東京山の手方言話者には全く現われなかった。

2.5.2. 解釈

(a) 出現数が少ないため定かではないが、(1)からSAでは否定条件形式は切り換えの対象になっていないことがわかる。
(b) (2)から、YAはネートとナイトを切り換えの対象としていることがわかる。
(c) YAは、下例のように「いけない」にあたる形式が後接する場合はナキャを用い、後接しない場合にネート・ナイトを用いている。この傾向は、東京下町方言話者（松丸・辻2002）にも見られる。

〔14〕ナキャ＋いけない

250YA:えー。だ《だから》たまに 車で 来るんですよね？（YF:あー）車だ[と] ちょっと まわん
→ なきゃ いけないんで。 〔若－調〕

〔15〕ネート＋φ

→570YA:奥さん候補 探さねーとな まずな？

〔若－若〕

〔16〕ナイト＋φ

522YA:…(略)…やっぱ 現場で 採った 人間を 上に あげる ってゅーのはー、枠を 1つ 増や
→ さなきゃいけない 話ーですし よっぽど 優秀じゃないと ってゅーのは、(YF:あー なるほどー) あるでしょーねー、…(略)… 〔若－調〕

2.6. 否定

2.6.1. 結果

〔表11 動詞[*1]〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
マセン	-	-	-	5
ナイデス	-	-	-	17
ナイ	9	7	40	26
ネー	-	-	20	1
ン[*2]	-	-	2	-

*1 ワケワカラナイなどは肯定との対立を持たないため除外した。
*2 YA《対調》でも1例見られるが、以下のように引用文の中に現れるため、集計から除外した。
〔16〕除外した《対調》のン
428YA: …(略)…だかー《だから》結構 株価って やっぱり 景気を 一番 ん 従順に 判定してる
→ な？ とは、(YF:へー)よく 株価で 景気は 計れん とか 言いますけどー、(YF:はい) むしろ 株価の 方が ほんとの 意味での 市民の、レベルでの あれを 反映してる 感じぁ しましたねー。
〔若－調〕

〔表 12　動詞以外[*1]〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ナイ	3	3	19	23
ネー	-	-	8	-

*1　アブナイ・ショーガナイ・シカタナイ・〜シナキャイケナイ・〜カモシレナイなど肯定との対立を持たないもの、デハナイカにあたる形式は除外した。デハナイカについては〔表 13〕を参照。

〔表 13　デハナイカ〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ナイ	5	4	5	18
ネー	-	-	7	1

(1) SA は、ナイのみを用いている。

(2) YA は、動詞否定形ではマセン・ナイデスを《対調》のみで、ンを《対若》のみで用いる。マセンとナイデスは特に切り換えられていない。

(3) YA のネーは《対調》でほとんど現れない（動詞以外やデハナイカでも同様）。

(4) デハナイカを除いて、ネーが現れる場面でも、その数がナイを上回ることはない。

(5) 対してデハナイカでは、《対若》でネーの数がナイを上回る。

2.6.2. 解釈

(a)　(1) から、SA では否定は切り換えの対象になっていないことがわかる。

(b)　(2) から、YF はマセン・ナイデスを丁寧な形式として捉えていることがわかる。

(c) 動詞否定形のみの問題として、YF のンの使用がある。資料では以下の例のように、どちらもワカランの例である。ンを使用する地域ではない東京において、このような形式が現れる理由は定かではないが、生産的な否定形式ではなく語彙的な現象である可能性が高い。いずれにしてもンは《対調》には現れておらず、改まった場面での使用が規制されることが予想される。

〔17〕

198YC: ね 因みに これ 全部 飲んでいー ともう？

→199YA: わからん。（YC:{笑い}）{笑い}　〔若－若〕

〔18〕

511YA: いや だって こんなに 飲めないってー。

512YC: あーそー。帰ってきたら びっくりするかなー。{笑い}

→513YA: {笑い}いや わからん。俺は 飲んでねーからな？{笑い}ほんっと よく 飲むよなー。酒は あんま のま 飲まないか あ 飲むのか。…(略)…

〔若－若〕

(d) (3) から、ネーは改まった場面では使用されにくい形式であると考えられる。ネーが《対調》で現れることもあるが、その場合には、下例のように独話的な発話（聞き手に対してのものではない発話）に限られる。

〔19〕動詞否定形

166YA:…(略)…だ《だから》別の一 橋口研 つの あるんですけどー、(YF:はい)そこ 今 学生 ひとりしか いなくてー、(YF:はい)ちょーど これの 半分ぐらい ひとりで 使ってるんですよ。(YF:はい)泊まってますよ。(YF:{笑い})畳とか 持ち込んでますからねー。

167YF:{笑い}いーですねー

168YA:どーも それも 歴史ですよ？ それ 研究室。歴史。(YF:{笑い}) 歴史なのに と思います

→ よねー、(YF:はー) 要らねーだろ ＊＊＊＊、(YF:へーー) うん

〔若－調〕

〔20〕デハナイカ

143YF:ふるー 古かったんですか？ 建物

144YA:ふる ボロです ボロです もー ボロです。(YF:へーー{笑い}) えー あんな ボロいの

→ ないんじゃねーか ってゅぐらい ボロです。 〔若－調〕

(e) (4) から、ネーは《対若》においても使用されにくい形式であると考えられる。

(f) (4) (5) を併せて考えると、ネーへの切換えはデハナイカで顕著に起こる。終助詞的な形式の方が切換えの対象となりやすいのであろうか（cf. 2.3. 原因・理由）。

2.7. ガ格

2.7.1. 結果

〔表 14[*1]〕

	老 (SA)		若 (YA)	
	対老	対調	対若	対調
ガ	74 (94.9)	30 (88.2)	75 (68.8)	150 (77.3)
∅	4 (5.1)	4 (11.8)	34 (31.2)	44 (22.7)

*1 以下のように、ガ格／ヲ格両方の解釈ができるもの、いわゆる対象語格は除外した。

〔21〕

→015SA:そうする一方がね、(SC:うん)あのー 運動機能が あのー より一高められるって (SC:あー) ゆようなことで、 あのー 最近 先生に 勧められて。(SC:あー)

〔老－老〕

〔22〕

→294YA:…(略)…ま 乗馬 やりたいな と 思ったん＊＊ ま ご存知の通り 高いと。(YF:はい)てゅのが あって なかなか こー 始められなくってー、…(略)…

〔若－調〕

(1) SA は、《対老》《対調》で∅の出現割合にあまり差が見られない。

(2) YA は、《対若》《対調》で∅の出現割合にあまり差が見られない。

2.7.2. 解釈

(a) (1) (2) から、ガ格は切り換えの対象になっていないことがわかる。

2.8. ヲ格

2.8.1. 結果

〔表 15[*1*2]〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ヲ	12（52.2）	22（84.6）	8（30.8）	82（60.7）
φ	11（47.8）	4（15.4）	18（69.2）	53（39.3）

*1 以下のように、ガ格／ヲ格両方の解釈ができるもの、いわゆる対象語格は除外した。

〔23〕

004SA:…(略)…なかなか あの一私たちーぐらいの年だと 中へ入って、行きにくい（YF:はい）ね。
→ ま あのー でも おー 孫と あのー おー Eメールを（YF:はい）やりたいとか（YF:{笑いながら}はい）{笑いながら}そーゆー様な う、あのー 願望が あって。…(略)…

〔老－調〕

〔24〕

036YA:…(略)…で 結構 こー お客さんの 色んなものも 見れて システム 色んな システム
→ 見れてー、それを 扱える っつーの 面白いだろーなっ 視野も 広がるだろーな とは 思ったんですよ。（YF:はい）…(略)…

〔若－調〕

*2 以下のように、前接形式の［o］が長音化したものは除外した。

〔25〕

201SA:うーーん。うんうん。あの、あー、あの、最近 行ってないからね。前に あの 水産
→ ー大学ー（SC:うんうんうん）のーね、なんかー あの、おー 仕事ー ずっと やってたもんだからね。（SC:あーそー）＊＊＊＊＊

〔老－老〕

(1) SA は、《対老》＞《対調》の順でφの出現割合が高い。

(2) YA は、《対若》＞《対調》の順でφの出現割合が高い。

2.8.2. 解釈

(a) (1)(2) から、ヲ格の省略は改まった場面では行われにくいことがわかる。

(b) 前節のガ格に比べると、ヲ格の方が省略される割合が高く、より切り換えに与っていると言える。

2.9. 間投助詞

2.9.1. 結果

〔表 16[*1]〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
デスネ	-	-	-	5
ネ（ー）	88	22	54	85[*2]
サ（ー）	7	1	57	-
ナ（ー）	-	-	24	-

*1 以下の形式に後続するものを間投助詞として認定した。（松丸・辻 2002 による）
接続助詞・接続詞・副詞・副助詞・格助詞・テ形・テユーカ・名詞（ダ・ヤを補うと意味が変わるもの）

*2 丁寧形式が付加されたデスケドネ（26 例）・デスカラネ（6 例）・デシタカラネ（2 例）・マスケドネ（4 例）・マシタケドネ（1 例）・マスカラネ（6 例）・マシタカラネ（1 例）を含む。

(1) SAは、両場面で主にネ（ー）を用い、《対調》ではサ（ー）はほとんど現われない。
(2) YA はネ（ー）を両場面で用いているが、《対調》では丁寧体に接続助詞を伴う形での使用が多い（85例中46例）。
(3) YA のサ（ー）・ナ（ー）は《対若》でしか現われず、デスネは《対調》でしか現われない。

2.9.2. 解釈

(a) (1) (2) (3) から、SA・YA ともに連続的な切り換えを行っていることがわかる。
(b) SAは《対調》でサ（ー）を1例用いているが、これは談話を終了する際の「断り」という形で現われている（下例参照）。サ（ー）を用いることによって聞き手との心理的距離を縮め、「断る」という行為を和らげようとしているのではないか。

〔26〕

080YF:うーーーん。{間}はい。{苦笑しながら}すいません、じゃ、＊＊＊

081SA:ん、いーい？ ね、

082YF:すいません 長い間ありがとう＊＊＊

→083SA:あのー も、もーちょっと長くお付き合いしたいんだけど（YF:はい）僕 用事あるんでさー勘弁してください。

〔老ー調〕

(c) サ（ー）・ナ（ー）には丁寧形式と共起する例がないことから、改まった場面には用いられない、ぞんざいさを伴う形式であり、ネ（ー）よりも下位形式に位置づけられていることがわかる。

2.10. 丁寧体 ーデス・マス形式ー

2.10.1. 結果

〔表17 デス*1〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
デス*2	16 (17.4)	28 (50.0)	11 (6.6)	402 (84.8)
ス	-	-	-	20 (4.2)
ダ・φ*3	76 (82.6)	28 (50.0)	155 (93.4)	52 (11.0)

*1 デス、ス、ダ・φともに引用節内の語はすべて除外した。
*2 非過去形・過去形・推量形を含む。また、[d] が弱化したエスのような形式も含む。
*3 形容詞・形容詞型活用をする助動詞・指定辞「ダ」「ノダ」・確認要求のジャナイカ等の述語、動詞推量形および述部にたつ単独の名詞・名詞句を集計した。ただし、以下の場合集計から除外した。（松丸・辻2002による）
1) 名詞・形式名詞が後続する場合
2) 終助詞（類）「サ」「ジャン」「ヤ（詠嘆）」等が後続する場合
3) 接続助詞「ナラ」が後続する場合
4) あいづち・聞き返し
5) 融合形「ッテュ」（＝という）等に前接する形容詞・名詞述語、「ッテュー」等の融合形自体

〔表18　マス[*1]〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
シマス[*2]	1 (1.4)	11 (35.5)	-	102 (56.4)
スル[*3]	68 (98.6)	20 (64.5)	94 (100)	79 (43.6)

*1　シマス、スルともに引用節内の語はすべて除外した。
*2　非過去形・過去形を含む。
*3　動詞・動詞型活用をする助動詞（否定形を含む）・形容詞「ナイ」、「カモシレナイ」を集計した。ただし、以下の場合集計から除外した。（松丸・辻 2002 による）
1）推量形
2）形式名詞が後続する場合
3）終助詞（類）「サ」「ジャン」「ヤ（詠嘆）」等が後続する場合
4）接続助詞「バ」が後続する場合
5）あいづち・聞き返し
6）融合形「ッテュ」（＝という）等に前接する形容詞・名詞述語、「ッテュー」等の融合形自体
7）南（1974；1993）A類従属句内にくる場合

(1) SA は《対老》＜《対調》で丁寧形式デス・マスの使用率が高くなる。
(2) YA は《対若》＜《対調》で丁寧形式デス・マスの使用率が高くなる。
(3) SA の《対老》で用いられるデスは、ほとんどが推量形式である（2.11.参照）。
(4) YA の《対若》で用いられるデスは、すべて推量形式であり、ほとんどが確認要求用法のデショ（ー）である（2.11.参照）。
(5) スは YA の《対調》でしか現われない。

2.10.2. 解釈

(a) (1)(2) から、SA・YA ともに丁寧体と普通体による切り換えを行っていることがわかる。
(b) (3)(4) から SA・YA ともに言い切りのデスは改まった場面での使用がほとんどであるが、くだけた場面でも推量形式（特に確認要求用法）では丁寧体を用いる傾向にあることがわかる。
(c) SA のデータが少ないため定かではないが、(5) から、当該地域ではスは若年層に特有の言葉であると考えられる。

2.11.　推量形式

2.11.1. 結果

〔表18　確認要求用法〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
デショ（ー）	9	7	10	1
ダロ（ー）	-	-	17	-

〔表 19　推量用法〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
デショ（ー）	5	2	1	6
ダロ（ー）	9	4	13	1

(1) SA は、確認要求用法ではデショ（ー）のみを用いている。推量用法では両形式の間に特に切り換えはみられない。

(2) YA は、確認要求用法では《対若》に対してのみダロ（ー）を用いている。推量用法では主に《対若》でダロ（ー）、《対調》でデショ（ー）を用いている。

(3) YA は、《対調》で推量用法のダロ（ー）を 1 例用いているが、これは独話的な発話で現われたものである。

〔27〕

166YA:…(略)…だ《だから》別の一　橋口研　つの　あるんですけどー、(YF:はい) そこ　今　学生ひとりしか　いなくてー、(YF:はい) ちょーど　これの　半分ぐらい　ひとりで　使ってるんですよ。(YF:はい) 泊まってますよ。(YF:{笑い}) 畳とか　持ち込んでますからねー。

167YF:{笑い}いーですねー

168YA:どーも　それも　歴史ですよ？　それ　研究室。歴史。(YF:{笑い}) 歴史なのに　と思います

→　よねー、(YF:はー)要らねーだろ　＊＊＊＊、(YF:へーー) うん　〔若－調〕

2.11.2. 解釈

(a)　(1) から、SA では推量形式は切り換えの対象になっていないことがわかる。

(b)　(2) から、YA のダロ（ー）は改まった場面では使用されにくいことがわかる。

3.　まとめ

(a) 今回分析した項目のうち、SA が切換えているのは、自称詞、対称詞、ヲ格、間投助詞、丁寧形式の 5 項目であった。

(b) 今回分析した項目のうち、YA が切換えているのは、自称詞、対称詞、原因・理由、否定条件形、否定、ヲ格、間投助詞、丁寧形式、推量形式の 9 項目であった。

(c) 上記 (a) (b) から、YA に比べ SA は《対調》を改まった場面としてあまり意識していないことが伺える。これは、SA にとって調査者が初対面であるとはいえ年少者であることが関わっていると考えられる。また、あまり切り換えを行わないということが当該地域の老年層の特徴である可能性もある。ただし、〔老－調〕の談話収録時間が他と比べ少ないことも少なからず影響している。

(d) 自称詞、対称詞のような語彙項目はほぼカテゴリカルな切換えが行われている。

(e) 原因・理由、否定などのような文法項目では連続的な切換えが見られる。

(f) 文法項目では終助詞的なものに切換えが顕著に見られる。

4. 展望

(a) 文法項目では、意味的な面からの分析を残している。YA については用例数が多いため、分析に耐えうると考えられる。今後の課題である。

(b) 今回は主にドメイン間での切り換えについて分析したが、連続的な切り換えの見られる項目については、ドメイン内での切り換えを詳細に見ていく必要がある。

(c) 今回のデータは〔老ー調〕談話が他の談話に比べて少なかったため、分析に影響を及ぼした可能性が大きい。今回は分析対象としなかったが、今後は YF が積極的に参加した〔老ー老〕談話の後半部分を文字化、参考データとして取りあげる必要がある。また、本プロジェクトでは東京山の手方言話者の資料を他にも収集しており、別の話者の〔老ー調〕談話も同じく取りあげて再検証する必要があるかもしれない。

【参考文献】

松丸真大・辻加代子（2002）「東京下町方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』4：33-54

三尾砂（1942）『話言葉の文法（言葉遣篇）』（1995,復刻）くろしお出版

南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店

————（1993）『現代日本語文法の輪郭』大修館書店

にしはら　ななこ（大阪大学大学院研究生）

nanakonishihara@hotmail.com

〔老－老〕

収録日時：2003年5月7日
収録場所：料亭
話題：SAの家族→本当の山の手→下町→青山・麻布→白金・目黒→画家→大泉学園→吉祥寺→古い建築物→山王→馬込→大井町→品川→東京の街の変化→工兵隊→渋谷近辺→天王洲アイル→SAの近所→本当の山の手→高級住宅→臨海線

082SC：あ、行ってなかった？
083SA：い、行って、行ってないのね。
084SC：そこの一建物が　そこに残って（SA：あーそーなんだ）移築してあるんだ。（SA：へーー｛咳払い｝）でー　ほら、僕なんかが飲みに（SA：うん）行ってた頃はね、（SA：うんうん）もー　傾いちゃってさ（SA：うんうんうん）古いんだっつってたけど、ありゃ　安政年間でさ、残ってんだね。（SA：あー　そーなんだ）だもんだから　それ建て直してねー。って　行ってみたら｛舌打ち｝まー　あそこの　犬山ー（SA：うん）名古屋のねー犬山にも　あのー　めい、明治村があるでしょ？（SA：うんうんうん）あそこは建物だけ移築して　多少　まー、あの一中の雰囲気残してあるけど。こっちのねー　あのー　江戸建物館は　かなり（SA：うん）その、忠実に。（SA：うん）だから　飲み屋のね　お皿からね　もーメニュー、ね？　値段表＊＊＊（SA：｛笑い｝）飾ってあるの。だから　昔で、あ、そーそー　こーゆー座ってね＊＊＊（SA：うんうん。なるほどなるほど）座って＊＊＊面白かったけどね。で、うーん　あのー　昔　飲んでる時（SA：うんうん）気が付かなかったけどね、平屋かな？と思ったら（SA：うんうん）二階家なのね。あれね。（SA：うんうん。あーそーなんだ）うん。
085SA：あのー　そーで　鍵屋ーの　たぶんそ、そばだろーと思うけど、あのー　上野の山からずっと下りた（SC：うん。えー）所ーに　あのー　豆腐料理のさざめー、
086SC：えーえー、細雪ね。
087SA：細雪ね。（SC：えーえー）あすこーなんかも　古い（SC：そーね）建物　も、建て変わってるかもしれないけど、
088SC：うーん。あのー
089SA：あのー　僕ら　行った時には　まだ古い建物ね。
090SC：古いーでしょ？まだ　僕はね（SA：うん）女房と行ったのいつだっけなー　2、3年前　まだ古かったよ。（SA：あーそ）うん。
091SA：黒一光りしたね　あのー　大黒柱や梁がね　あのー　あって、なかなか（SC：うんん）立派な建物。まだ　そーゆーものが、あれだね、残ってるよねー。うん。（SC：そーね）んー　すと　あれからずーと　えー　谷中ーに抜けて行くのかな？
092SC：えーと　あすこで　どこだったかなー（SA：あのー）あのー　鍵屋　よーするにねー　あのー　あすこー　道路　拡張になったんで　立ち退き（SA：うんうんうん）になった。｛間｝だけど　あの辺から　よーするに　根岸の＊＊＊（SA：うんうんうん）言われる、（SA：うんうん）言われた頃　あの辺　別荘があったりなんかしたねー（SA：うんうんうん。なるほど）＊＊＊
093SA：あのー　そーだよね。あのー　鴎外の（SC：そーそーそー）彼の小説なんかにあのー　出て来るーのはねー（SC：そーそーそー）あのー　ほんと　しっとりとした坂道にー（SC：うん）あのー　道路に　こー　こんもりと（SC：そーそーそー）松やさ、
094SC：だから　昔ー
095SA：え、あのー　森が　こー　被さってるってゆーね
096SC：そー　都心からね、ほんのちょっと離れたとこの　べ、別荘とゆーか　別邸ってゆーか（SA：そーだよねー）別宅があったとこでしょ？
097SA：そーそーそー　うんうんうん。

〔老ー調〕

収録日時：2003 年 5 月 7 日
収録場所：料亭
話題：コンピュータで描く絵→題材→描く時間→表現の仕方→水彩画と油絵

001YF：すいません。では、よ、よろしくお願いいたします。あの、上で　絵を　えーと（SA：はいはいはいはい）拝見させていただいたんですけども、あのー　みんな　個性が（SA：うん）あるんですけども、SA さんの方は　二種類、ぐらいあってですね。（SA：あーあー）一個　あのー　鉛筆の上に　すい、水彩画なんでしょーか　あれは。

002SA：えー。あのー　あすこにー　描いてあるのと　だいたい同じ様な（YF：はい、はい）あの、系統ーの絵を、（YF：はい）え、今　おおきー［大きい］やつは出して、います。

003YF：はい。あの、で、小さい方は　なんかあのー（SA：うん）YPC って（SA：うんうんうん）書いてある＊＊（SA：はいはい）あれは　最近始められたんですか？

004SA：うーーん、そーです。うーーんっと　あのー　おー　パソコンをー（YF：はい）おー　いじり始めてから（YF：{笑いながら} はい）うー　ま、あのー　あーゆー　うーツールが　あるとゆーことーーは　わかってたんだけど、（YF：はい）なかなか　あのー私たちーぐらいの年だと　中へ入って、行きにくい（YF：はい）ね。ま、あのー　でも　おー　孫と　あのー　おー　E メールを（YF：はい）やりたいとか（YF：{笑いながら} はい）{笑いながら} そーゆー様な　う、あのー　願望があって。（YF：はい）そ、それとー　おー　なんでもちょっとやってみたいじゃない？（YF：はい）うー　そーゆー中でいじり始めて、でー　んで、あのー {舌打ち} わ、私の　あのー　事務所の一上に、（YF：はい）えー、すぐ上に、えー　あのー　デザイン事務所が（YF：ほー）入っているんですよ。（YF：はいはい）で、そこーは　あのー　ほとんど　あのー {舌打ち} 広告関係（YF：はい）の　そのー　道具として、（YF：はい）　昔はあのー　筆ーや、ま、あのー　ペン、烏口で描くとかね。（YF：はい）そーゆーのが、え、それと　まー　ポスターカラーを塗るとか、そーゆー様なことが　ほとんどの、（YF：えー）仕事だったわけですよ。（YF：はい）ところが今は　全部もー　コンピュータ、処理して、いるのね。（YF：はい）そーゆーの　あの、見せて、もらって。（YF：はい）で、まー　それに触発ーされて。えー　じゃ、僕も　おー　まー、うー　学生の頃　ってゆーか若い時には、やはりあの　デザインの仕事したいと思って（YF：はい）ま、昔　スタイルの　勉強したこと（YF：はい）があってね。（YF：はい）ま、そー、そーゆー様なことーのま、なんてゆーかな　気持ちの上ではリバイバル（YF：はい）の（YF：はー）つもりで、あのー　今、あのー　パソコンを使って（YF：あー　なるほど）うん。絵を描こーと（YF：はい）{笑いながら} で、そーゆー　うー　ことの　作品です。（YF：あー　なるほど）うんうん。

005YF：あの、普通に　Windows に付属しているやつを使って

006SA：えー、そーです。えー。

007YF：はーー。その、専門の

008SA：{舌打ち} あー、あの

009YF：なんか　ソフトを使わずに

010SA：う、あのー、うー　一部入っていますね。

011YF：あー、そーですか。あのー　夜の絵のやつですか？

012SA：うーーん、えと、えと、例えばー　あのー、僕はー　あれ　paint5 ってゆったかな？（YF：はい）えー　それーが入って（YF：はい）えー、います。（YF：はーー）でもねー　単純なものでも結構いけるんですよ。（YF：あ、そーですか）うん。

013YF：でも、その、なんか　こー　グラデーションにしたり

〔若－若〕

収録日時：2002年8月15日
収録場所：YAが通う大学のAVセミナー室
話題：海外の宿泊施設 → 体型 → 古い建物→ YAの人生 → YC → 昼御飯 → 風景 → YC → 日本酒 → 結婚 → 中学時代 → 学校名 → アメリカの大学

034YC：じゃ　メガネの　歴史について　＊＊＊＊
035YA：だから　メガネは　いーから、ね？
036YC：どーしよ　なんか{笑い}、帰ってきてなんか　コントみたいに　入ってたら、{笑い}(YA：{笑い})　＊＊＊
037YA：え　結局　ホテル　どーなったの？　あれ。
038YC：ホテルは　まだ　決めてない[んだ]。あれはねー　昨日ねー　きょ
039YA：だって　昨日　安い　ところ　って、
040YC：昨日ね？　安い　ところは　まず　一杯だった　わけですよ。(YA：あー)んでー、あのー　その後　ヤフーってちょと　アメリカの方ん　サイトでま　懸命に　探し始めてー、(YA：んー)ま　何件か　見つかったんだけどー、(YA：んー)まー、これぐらいかな　って、{咳払い}
041YA：てゅと？　だいたい　どれぐらい。
042YC：んーとね　89ドル　つて　買ったからー　89って　けっこ、
043YA：あー　安いじゃん　ニューヨークで89ドルだったら、あ　でも　なに　全部ー　共同の　バスと、
044YC：もちろん　もちろん
045YA：トイレ？
046YC：えーとね、そー　バス　トイレ　共同だったな。
047YA：じゃ　結構　あれやなー、そー　考えると　ニューヨークって　やっぱ　高いよなー。
048YC：ニューヨーク　世界一　高い　とこん　物価が　高い　街だもん。
049YA：いや　俺も　結局　また　今度　12月に　香港　行くんだけどさー、今度はねー　あのー　金、前は　水曜日から　去年は　水曜日から、日曜日で行ったんだけどさー、今度は　ちょっと　時間も　あれだからー　金曜日から？　何だよー！{笑い}
050YC：君　なんか　ちょっと　偉そーじゃない？　なんかー、{笑い}
051YA：いや　偉そーだよ　俺は、{笑い}で　金曜日から　日曜日？　え　ま　で　月曜日　帰ってくる　っての　行こーとぉもってんだけどさー、今度　あの、カオルーンって　知ってる？　香港の、あ　だ　ペニンシュラ系のさ、
052YC：あー　知ってる　知ってる　うん
053YA：あのー　ビジネスホテルに(YC：うん)なってる　やつ(YC：うん　んんんん)ペニンシュラの　あすこー、泊まってみよーと　思ってんだけど　あそこだって　ネットも　なにも　全部　完備なんでしょ？
054YC：いやー　ま　そゆの　多い(YA：あー)なぉ　香港とか　そーゆー　ホテル多い　とぉもうよ？　たぶん　だけど、
055YA：あ　でも　意外にね　みんな　有料なのよ。
056YC：あー　ゆー、
057YA：あそこ　無料なんだよ。
058YC：あー　有料か　無料か　どーか　わかんないけど、
059YA：そーそーそー　でー、
060YC：ん　設備が　整ってる　こと　自体多い　と思うよ　たぶん　だけど、
061YA：うん　でー、ねー　ま　そーゆ　とこ1回、で　そんな　高くないんだよ？　9千円、ちょい？　ま　香港にしちゃ高いけどさ、(YC：うん)まー、ねっ　2泊ぐらいだったら　だ　3泊か、それぐらい　しても　いーかなー　ともって、
062YC：えー？　さっすがー。
063YA：なんで　それぁ　この前　6千円　とこ　泊まって　結構ねー、あんまりいー気分　しなかったよ　やっぱり、

〔若ー調〕

収録日時：2002 年 8 月 15 日
収録場所：YA が通う大学の AV セミナー室
話題：就職 → 研究 → YF の大学 → YC → YF の出身大学 → 大学施設 → 実家 → 新宿と渋谷区 → 乗馬 → アメフト → 母親 → 弁当屋 → 景気 → 通学 → 就職

001YF：じゃー　さっそく、(YA：えー) {笑いながら} お願いします。
002YA：どーも　お願いします。
003YF：YF と言います。
004YA：あっ　YA と申します。どーも　よろしく　お願い [します]。
005YF：お願いします。えとーー、何でも　いんですけどもー、(YA：えー　えー) もー　就職ー　決まったんですか？
006YA：あー　決まりましたよ　おかげさまで
007YF：どーゆ
008YA：おかげさま　っつーのも　{笑いながら} 変ですけど。
009YF：{笑い} どーゆー　ところに　＊＊
010YA：あ　アジア鉄道、ですねー。
011YF：あ　そーなんですか。
012YA：えー。
013YF：なんか、
014YA：おとー、さま　あれ？　YF さんの　おじーさまでしたっけ。日の丸鉄道《アジア鉄道の前身》でしたっけ。
015YF：あー　日の丸鉄道です。
016YA：ですよねー。
017YF：機関士ーですねー。
018YA：ですよねー。
019YF：へー
020YA：えー　だかー《だから》　まー、方向的には、{笑いながら} 遠くないすねー
021YF：{笑い} えー　その　電車を　動かすんですか？　その、
022YA：わっ。さいっしょ　研修で、やるかもしれないーー　ですねー
023YF：でも　その、
024YA：1、2 年ぐらい。
025YF：希望は　どんなんー、
026YA：きぼぁ《希望は》　輸送ですね。やっぱ　方向的には　一緒なんですけどー、
027YF：あっ　そーなんですか。
028YA：え　ただ　内勤ですけどね　ダイヤ組んだりとか、(YF：はーー) そーゆ　方向には　なりますけどー、ま　最初のうち　やっぱ　現場を　知れ　って　ゆーのは、至上命令で　来ますんでー、
029YF：ぜーいん　じゃー　う　動かす　練習は　するんですか。
030YA：運転か　車掌かー、(YF：はーー) [ですよ] ね？　ただ　僕　目ー　悪いんで　へ　運転ー　できる　可能性ぁ極めて　低いーですけどね？ (YF：そーですねー) えー (YF：はーー) [や] っぱり　矯正《視力》で　いってんご《1.5》　なきゃいけないらしーんで、
031YF：あっ　そー
032YA：えー、ま　矯正で　いってんごは　さすがに　ないですからねっ (YF：{笑い}) {笑い} (YF：へーー) えー、
033YF：え　そのーー、なんか　システムエンジニアーーみたいな　こと　や　やられてる　って　聞いたんですけどー、
034YA：あー　まー　やっ、てましったよ《やってましたよ》。　だぁ《だから》　去年とか　インターン　やっててー、(YF：はい) そっちー　方向は　やってたんです　エスイー《SE》とか　コンサルとかの　仕事は　やってたんですけどー、(YF：はい) 面白くないんですよ　これが。
035YF：あっ　そーなんですか？
036YA：はい、具体的ーーじゃないんですよね？　仕事　やってる　ことが、常に　こーお客さんの　ゆーことを　聞いて　ってゆー　コンサルとかって　みんなそーじゃないすか？ (YF：はい) で　お客さんの　要望が　こーだから　これに　応えて　こーしなきゃいけないっ、(YF：はい) で　たまに　お客さん　無謀なこと　ゆってくるんですよ　これが。(YF：{笑い}) そーゆことにも